

# 白中雑口把覧 (ザックバラン) No. 33

～ 白沢中の”今”を、ご覧ください ～

発行 令和2年11月27日

## 校長の白沢学その27「左馬允橋」

上古語父の信号を入ったところに、滝棚川を渡る小さな橋があります。左馬允橋です。その橋の袂に、平たい石があり、解説板が建っています。昔、橋として使われていた石です。



↑ 滝棚川を渡る左馬允橋 ↑



解説板には次のようなことが書かれています。

### 左馬允橋

昔から滝棚の原（沼田から東の原一帯）は幾度ももの戦場となり、この附近は攻防の要地で、敵情見張りのため物見塚を作り、その拠点として「砦」があった。この近くに「左馬允の砦」があったと言う。左馬允橋もこれに由来すると思われるが、詳細については定かではない。なお、左馬允橋は、白沢用水（沼田城堀川）を渡り、沼田へ出る生活上の橋として大切な橋であった。位置は、現在の橋の川上約9メートル程の所にあり、現在の橋の袂附近より斜めに下がってから渡り、また、袂附近に上がってきた。

- 〈形状〉
- ・たて 約3 m 10 c m
  - ・よこ 約60 ～ 70 c m
  - ・厚さ 約28 ～ 35 c m

当時のままかどうかは不明ですが、解説の通り、橋の袂から斜めに下がっていく道のような痕跡が残っています。また文中に登場する「左馬允の砦」は、裏面の地図中



に示した田のあたりにあったようです。『白沢村誌』によれば、「左馬允の砦」は久屋左馬允くやさまのじょうの居城とされ、戦国期に沼田氏の家臣として活躍したとのこと。



左の写真のように、「左馬允の砦」を南から見ると、丘の上にあることがわかります。解説文中に「敵情見張りのため物見塚を作り、その拠点として砦があった」とありますが、たしかに見張りには、適した場所であろうと思われます。

左馬允橋とは関係ありませんが、クリーンパーク白沢の入口に、下の写真のような石が置かれています。これも橋に使ったのではないかと思います。年代やその背景はわかりませんが、形が整えられていることから、左馬允橋よりは新しい物と思われます。



